第50回 市民俳句大会

第50回市民俳句大会が2月11日、子規記念博物館で開催されました。募集句2039句、当日句341句の中から特選に選ばれた150句のうち、市内の人の句を紹介します。○は複数の選者に選ばれた句です。（敬称略）

約500人の参加者で会場が満員の市民俳句大会

募集句

福谷　俊子　選
月照るや夫の遺せし領解文　大下　絹代（鴨川三丁目）
○雪ぼたるふはふは母を眠らする　玉井　セツ子（和気町二丁目）
すやすやと赤児の眠る開戦日　柴尾　美恵子（石風呂町）
きりもみに一葉秀野の愛の詩　坂本　貞子（堀江町）

有光　令子　選
一村の忽ち消ゆる時雨かな　弓矢　登志子（古川北一丁目）
しづけさに加はる蝶の凍てにけり　髙岡　周子（白水台五丁目）

上原　白水　選
夫になき余生を生きて新酒汲む　玉井　淳子（枝松六丁目）
遠くなる女らしさや帰り花　中城　繁子（畑寺四丁目）
綿虫の命の重さ掌に　重見　チエ子（恩地町）
大くさめ声もしぐさも亡父に似て　品川　守人（立花六丁目）
○小さき嘘重ねて看取る寒さかな　得居　啓子（北条辻）

宇和川　喬子　選
濁声で囀る饒舌の冬帽子　毛利　喜勢（鹿峰）
校門に深々と礼卒業す　市川　公博（山越二丁目）
立読の背中合せや漱石忌　西原　真佐子（梅田町）
測量の杭を打たれし冬田かな　長賀部　瞳（北斎院町）

髙岡　周子　選
飴玉に薄荷のにほひ落葉焚　天野　由香里（東野六丁目）
○短日やあと一針の手暗がり　岡本　孝子（久米窪田町）
初雪の絵本のやうな村へ入る　野村　タカ子（津吉町）

玉井　翠陽　選
語りたりぬ夫の墓前や虎落笛　西山　徳子（和気町一丁目）
春潮や夫〻繰る海女の命綱　矢野　岳照（鹿峰）
推し敲き得たる一句や秋灯下　二神　恵美子（北条辻）

相原　典子　選
うれしくて林檎さくつと丸かじり　河原　みどり（南高井町）
山に雪母を見舞へば笑みすこし　池島　朝美（高井町）

池川　紀子　選
風よりも高きに啼きて冬の鵙　梅木　由紀美（朝生田町三丁目）
岩渕　香城　選
聴き上手話し上手よ懐手　野田　由枝（土居田町）
道後温泉本館古りぬ漱石忌　重見　新子（朝生田町六丁目）
デカルトもカントも遠し山眠る　塩崎　純二（溝辺町）
船底にならぶ牛の眼雪催　渡辺　美紀子（道後湯之町）

梅岡　ちとせ　選
○雪ぼたるふはふは母を眠らする　玉井　セツ子（和気町二丁目）
草笛や翼を持ちし少年の　仙波　節子（千舟町七丁目）

大野　勇嗣　選
行く秋の風吹き抜ける矢狭間かな　荻山　玲幸（保免上一丁目）
○日当りて山家ありけり木守柿　河野　紀恵（北久米町）
寒紅をうすく百歳越えにけり　橘　信子（窪野町）
着ぶくれて流るる雲に心寄す　渡部　弘和（西垣生町）
子規さんに晩年あらず冬北斗　岡本　典子（石手五丁目）

片山　絢子　選
○日当りて山家ありけり木守柿　河野　紀恵（北久米町）
寺の名が村の小字よ落葉焚　芳谷　妙子（石手四丁目）
胸中に箴言ひとつ寒北斗　深野　和子（西長戸町）
大手振つて枯野の人となりにけり　井上　かず子（権現町）
少年のやうに枝張る枯木立　小野　カンナ（東野三丁目）
木下　節子　選
毛糸編む昭和の歌を聴きながら　山下　昭子（石風呂町）
○短日やあと一針の手暗がり　岡本　孝子（久米窪田町）

重信　トシ子　選
風花や兵たりしこと封じ逝く　土居　桂子（石手白石）

髙須賀　経匡　選
手につつむほどの幸せ花なづな　井上　由美子（味酒町一丁目）
一陽来復婚の荷に満つ日の光　原田　和子（北条辻）
○小さき嘘重ねて看取る寒さかな　得居　啓子（北条辻）

吉武　宗史　選
冠雪をもて石鎚の輝けり　柚山　紀美子（湯の山三丁目）

渡邊　孤鷲　選
籠に編む籤の踊りや風光る　矢野　岳照（鹿峰）

当日句

阪本　謙二　選
○息白きことも話して別れけり　忽那　早苗（高井町）
○紅梅の一輪こゑをあげにけり　赤穂　和子（平井町）
立春の雨の匂へる朝かな　弓矢　登志子（古川北一丁目）
○春炬燵より全身を抜きにけり　行本　奈智子（西垣生町）

髙石　幸平　選
○着ぶくれて大東京を一望す　松井　光子（道後今市）
○番傘を七分開きに雪の橋　青木　満子（東石井四丁目）
煮凝の虜となつてゐる目玉　丹　経子（畑寺三丁目）

福谷　俊子　選
○着ぶくれて大東京を一望す　松井　光子（道後今市）
なんぢやもんぢやの冬木が二本戦中派　西川　慶子（西長戸町）
をとこ逝きけり冬の神輿に囃されて　青木　治敬（石手白石）
反骨の骨もち歩く氷点下　織田　吉司郎（湯の山七丁目）
寒鴉唖唖と太宰のグッド・バイ　渡部　伊都美（辻町）

上原　白水　選
○紅梅の一輪こゑをあげにけり　赤穂　和子（平井町）

宇和川　喬子　選
建国日竿いつぱいの洗濯物　栗本　義廣（吉藤五丁目）
七種粥味良く出来てひとりかな　門屋　順子（道後町一丁目）
晩学の点訳遅遅と冴返る　菊池　ただのり（道後緑台）
芭蕉さん子規さんと呼びあたたかし　佐々木　真理（余戸東一丁目）

髙岡　周子　選
○息白きことも話して別れけり　忽那　早苗（高井町）
昆虫の虜なりけり卒業す　大本　千恵子（吉藤二丁目）
蕗の薹歩かぬ母の靴揃へ　幸渕　芳美（古三津六丁目）

玉井　翠陽　選
○百までと筆圧強き賀状受く　門田　久仁（道後町一丁目）
寄す波の七五調なる麗かな　黒田　清宏（光洋台）
染糸の藍の雫や冴返り　中川　久子（余戸南四丁目）

岡田　武夫　選
持ちあげし土のにほひぬ蕗の薹　古田　良美（西石井三丁目）
○百までと筆圧強き賀状受く　門田　久仁（道後町一丁目）
○番傘を七分開きに雪の橋　青木　満子（東石井四丁目）
負んぶして寝かす嬰児や猫柳　山本　憲子（祇園町）
ふらここや今まで知らぬ風と会ひ　吉村　滿喜子（土居田町）

櫛部　天思　選
炉話に小面お亀嘯と　藤岡　亜沙美（井門町）
冬川の泡に遅速のありにけり　武田　正（中村四丁目）
○寒卵こつと七曜はじまりぬ　岡田　早苗（湊町二丁目）
胸中に母のまじなひ雪まろげ　久保田　牡丹（保免上一丁目）
○春炬燵より全身を抜きにけり　行本　奈智子（西垣生町）

武市　公子　選
あやとりの橋の解ける朧かな　菊野　晄子（鷹子町）
風花や手籠に残る水の華　宇都宮　よしの（北土居五丁目）
○寒卵こつと七曜はじまりぬ　岡田　早苗（湊町二丁目）

お問い合わせは、㈳子規記念博物館☎931-5566・FAX934-3416へ